

薬剤科 DI ニュース

キシロカイン中毒・キシロカインアナフィラキシーショックについて

Q1. 気管内挿管している患者で気管内吸引の際、潤滑目的のためにキシロカインポンプスプレーを使用すると、気管内の上皮細胞などに悪影響を及ぼすことはあるのか？

A1. 気管内に与える影響はそれほどないと考えられるが、中毒症状（ショック、けいれん、ふるえ、血圧低下など）の方が重要である。添付文書上の上限は 200mg/回以上とされており、キシロカインポンプスプレーとして 1 噴霧 8mg であるので 25 回以上噴霧することになる。2000 年 3 月の第 27 回日本集中治療医学会総会において、気管内吸引時における潤滑目的に使用するキシロカインポンプスプレーと、対照として蒸留水を使った吸引カテーテルの挿入抵抗の比較試験を報告している。それによると、キシロカインポンプスプレー使用群に比べ蒸留水使用群の方が挿入回数が多かったとされる。つまり、気管内吸引時における潤滑目的でのキシロカインポンプスプレーの使用は考え直す必要があるかもしれない。（注：abstract のみの参考）

Q2. 坐薬挿入の際にキシロカインゼリーを用いるが問題ないか？

A2. キシロカインゼリーを肛門内に入れたことによる副作用報告はない。しかし、他使用目的でのキシロカインゼリーによるアナフィラキシーショックは報告されている。症例として、①消化管吻合時に使用した際アナフィラキシーショックを起こした例¹、②大腸ファイバー施行後呼吸困難・血圧低下などのショックを起こした例²、③胃切除術中、導尿目的でキシロカインゼリーを塗布したカテーテルを挿入後、アナフィラキシーショックを起こした例³、④経鼻挿管時に鼻腔内に注入したキシロカインゼリーによりアナフィラキシーショックに陥り心停止まで至った症例⁴などが報告されている。①に関してはリドカインによる I 型アレルギーであったが、②～④に関してはリドカインではなく、添加物の 1 つであるカルボキシメチルセルロースがアレルギーの原因だと考えられている。起こりやすい状況としては鼻腔や尿道の粘膜に傷があるとそこから一部血管系へと吸収されアナフィラキシーが起こることが考えられる。坐薬挿入の際にキシロカインゼリーによるアナフィラキシーが起こりうることを念頭に入れることが必要であり、潤滑目的に使用するのであればグリセリンなどを使用するほうがよいと考える。

（砂田）

¹ 五十嵐寛； リドカインゼリーによると思われるアナフィラキシーショックの 1 例，蘇生，10，63-64(1992)

² 沖守生ら； キシロカインゼリーを使用した大腸ファイバー施行後のショックの 1 例，皮膚，42(5)，529(2000)

³ 豊田佳隆； キシロカインゼリーショックの 1 症例，臨床麻酔，13(4)，566(1989)

⁴ 升田好樹； 日本臨床麻酔学会誌，12(7)，777-780(1992)